

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関特別支援学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年6月24日(月) 9:00~10:30
- 3 開催場所 関特別支援学校大会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者 会長 ダーリンプル規子(桜花学園大学保育学部国際教養子ども学科教授)
副会長 澤井 基光(岐阜県民生委員児童委員協議会会長)
委員 深見 大輔(本校同窓会長) (欠席)
高木 哲(岐阜県立ひまわりの丘第一学園 次長)
吉田 俊一(Man to Man Passo 株式会社パッソ岐阜校マネージャー)
清水 恵子(各務原市福祉の里所長)
山口 南美(P T A代表)
水野 友有(中部学院大学人間福祉学部人間福祉科准教授)
森藤 由幸(関市民生委員・地域住民代表)
吉田 純也(株式会社F デザイナーズ代表取締役)

学校側	渡辺 政幸	校長	
	佐橋 朋子	事務部長	
	三宅 千絵	教頭	(欠席)
	上村 篤	小学部主事	
	森 雅明	中学部主事	
	高橋 こう子	高等部主事	
	藤井 大悟	教務主任	

- 5 会議の概要(協議事項)
- (1) 学校運営協議会の設置運営について
- (2) 学校概要等の説明
・学校紹介 各部、寄宿舎紹介
- (3) 授業参観

(4) 高等部作業製品の販売価格について

- ・作業製品販売価格について説明。

意見1：粘土一つからの製品数と原価は割り出せないのか。

⇒一つの粘土から、種類の製品だけを作るわけではない。そのため、その時々によって多少原価は変動する。

意見2：高台のある陶芸製品が素敵である。

(5) 委員より 意見・質問等

意見1：ひまわりの丘第一学園から3名登校している。学校での姿を見て、教職員が個々に合わせて教育している。学校で身に付けたことを学園でも共通して支援していきたい。

意見2：教員自体も活動を楽しんでいた。大切なことである。

意見3：A・Bの教育課程の児童生徒が少ないのは地域の学校に通学していると認識している。

各務原市の支援学校が開校すると、児童生徒数が減り、半数になると予想される。

いっそう特色ある学校を目指してほしい。

意見4：個々に合わせた指導、支援をしている。教職員が楽しみながら、成長を見守っている姿が良い。学校で行っている支援・指導のノウハウを受け継いでいきたい。

意見5：隣接校とのコラボ活動など、日常的に地域とつながることがポイントである。

今後もこのような活動を通して、インクルーシブを特別支援学校から発信してほしい。

意見6：小学部より娘が在籍し、自分も長く本校に来ているが、改めて知ることが多かった。

個々に合わせた指導をしていて、安心でき信頼している。

意見7：ワークショップ、協働学習で中部学院の学生たちがここに通うことで、彼らの日常と違う姿を見ることができている。協働学習に参加している学生からは、「教育現場で怒っている人がいない」と学生から気づきが出ていた。特別支援教育から、良いムーブメントが起こると良い。

意見8：一人ひとりに寄り添っている。児童生徒数が減っても、地域の活動を行い、児童生徒と共に、この校舎を上手に活用してほしい。

意見9：教育目標を教職員が体現している。児童生徒にとって行きたい学校、保護者にとって安心できる環境づくりを大切にしていることがわかった。

(6) 委員長あいさつ

- ・本日出席した委員に礼を述べた。
- ・教職員が児童生徒一人ひとりに寄り添うことを大事にしている。
- ・運営協議会をもって、これをより良く進めることができるよう、協議、支援をしていきたい。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、参加した全員より今年度の学校経営計画を踏まえた学校運営方針に対して承認が得られた。参観を通して、児童生徒に応じた指導の実践や教育目標を体現できていることが再認識できた。作業製品価格についても、適正な価格であると承認を得た。来年度以降児童生徒数が減るが、近隣校や地域との連携や学校の特色をいかに打ち出すかが課題である。